

## Ⅱ 霧島市の社会環境の状況

### 1 人口

#### (1) 男女別人口

本市の人口構成を男女別にみると、令和4年10月1日現在、男性が59,061人、女性が63,865人で、女性が4,804人多く、人口性比(女性100人に対する男性の数)は92.5となっている。



(平成17年～令和2年：総務省「国勢調査」、令和3年～令和4年：鹿児島県推計人口)

#### (人口性比の推移)

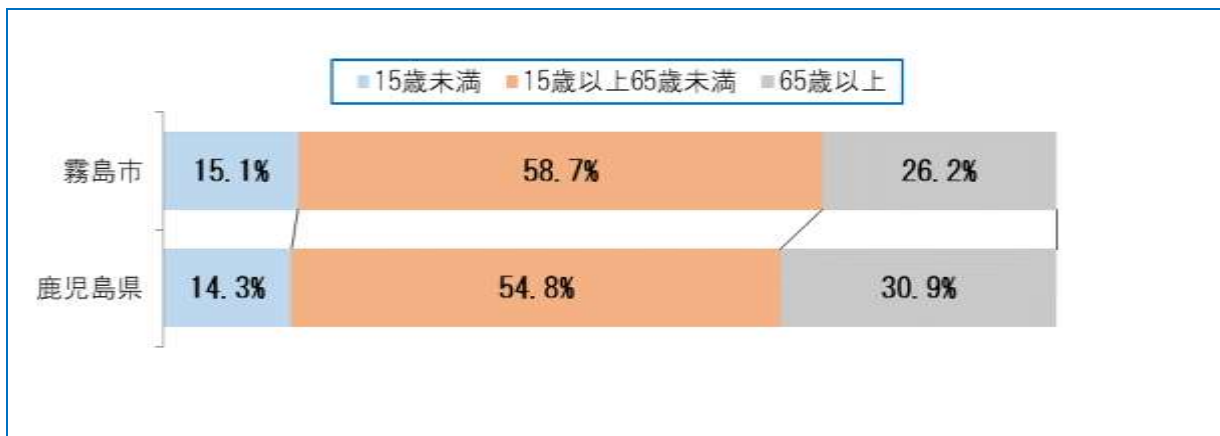


(平成17年～平成27年：総務省「国勢調査」、令和2年～令和4年：鹿児島県推計人口)

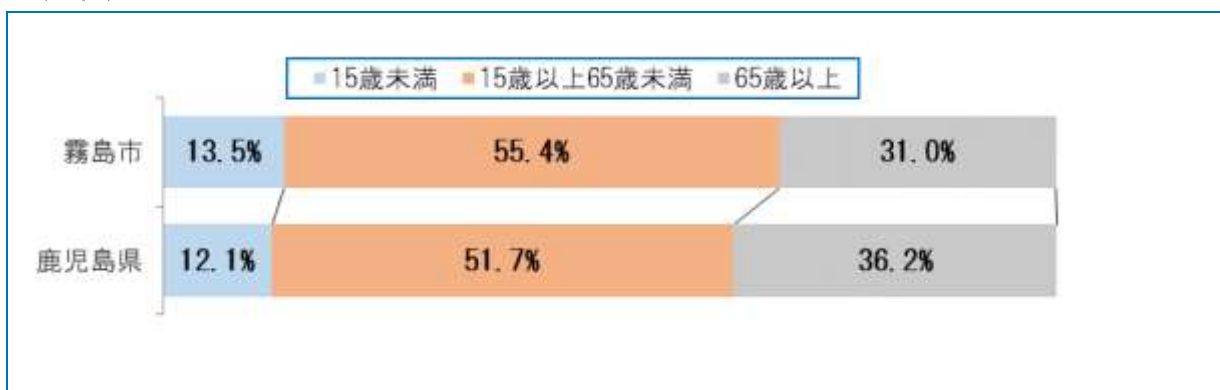
## (2) 年齢別人口

本市の人口構成を男女・年齢別にみると、令和4年10月1日現在で老年人口（65歳以上）は、男性が26.2%、女性が31.0%となっており、女性の方が男性より高齢化が進んでいる。一方、男女ともに、県内平均値と比較して、老年人口の割合は低く、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は高い。

### (男性)

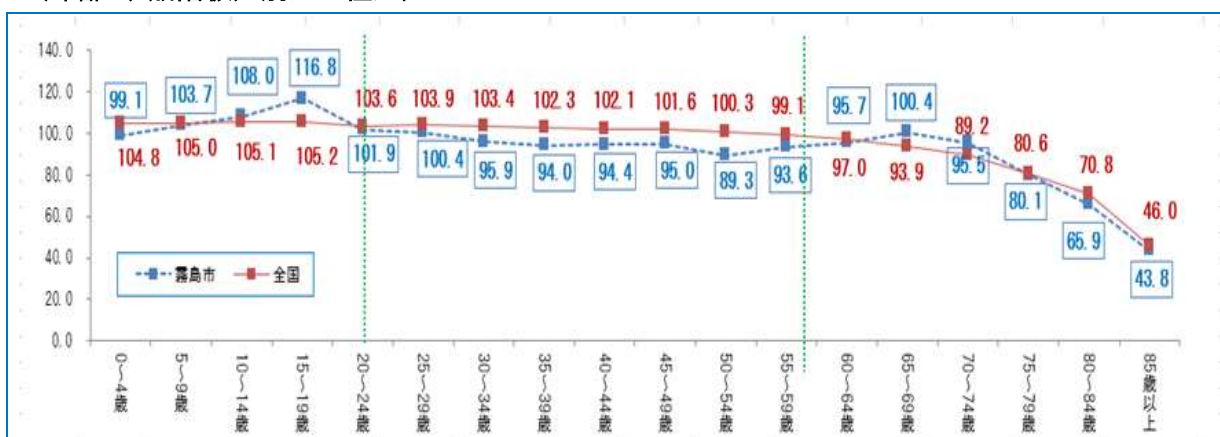


### (女性)



(鹿児島県推計人口)

### (年齢(5歳階級)別人口性比)



(総務省「令和2年国勢調査」)

## 2 世帯

### (1) 世帯数

本市の世帯数は、令和2年10月1日現在で55,586世帯となっており、前回調査時（平成27年）と比較すると1,252世帯、2.3%増加し、増加傾向にある。一方、1世帯当たり人員は2.14人となっており、前回調査時と比較すると0.17ポイント減少し、減少傾向にある。

#### (世帯数、世帯当たり人数の推移)



(総務省「国勢調査」)

### (2) 家族類型

本市の一般世帯を家族類型別にみると、令和2年10月1日現在で、「単独世帯」の割合が38.4%と最も多くなっており、増加傾向にある。一方、「核家族のうち夫婦と子供からなる世帯」の割合は24.8%となっており、減少傾向にある。

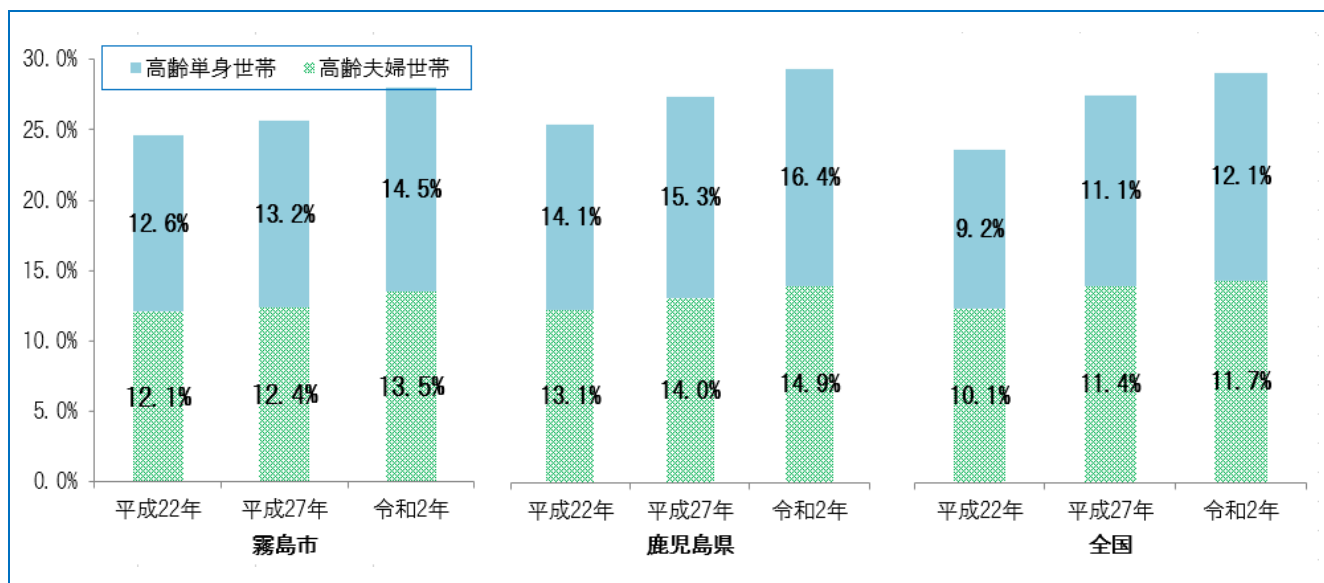
#### (一般世帯の家族類型別割合の推移)



(注) 一般世帯とは、「総世帯」から「施設等の世帯（病院、社会施設の入院・入所者等）」を除いたものであり、「普通世帯（①住居と生計を共にしている人の集まり、②一戸を構えて住んでいる単身者）」に「準世帯のうち一人の準世帯（間借り・下宿、会社等の独身寮の単身者）」を含めた定義である。(総務省「国勢調査」)

### (3) 高齢世帯

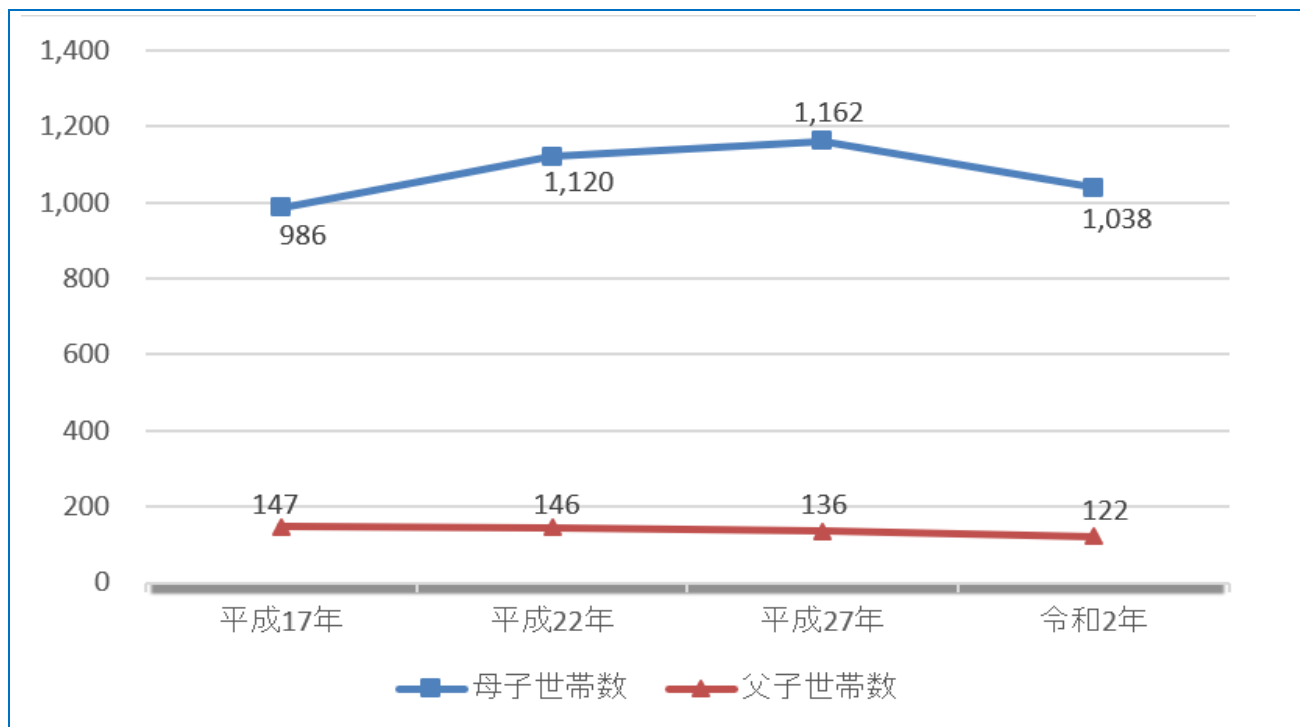
本市の高齢世帯の状況をみると、令和2年10月1日現在で「高齢夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上）」の割合が13.5%、「高齢単身世帯」の割合が14.5%となっており、いずれも増加傾向にある。なお、全国平均は、「高齢夫婦世帯」の割合が11.7%、「高齢単身世帯」の割合が12.1%となっており、本市は全国よりも高齢者世帯の割合が大きくなっている。



(総務省「国勢調査」)

### (4) 母子世帯・父子世帯

本市の母子世帯数は、令和2年10月1日現在で1,038世帯となっており、前回調査時（平成27年）と比較すると124世帯、10.7%減少している。



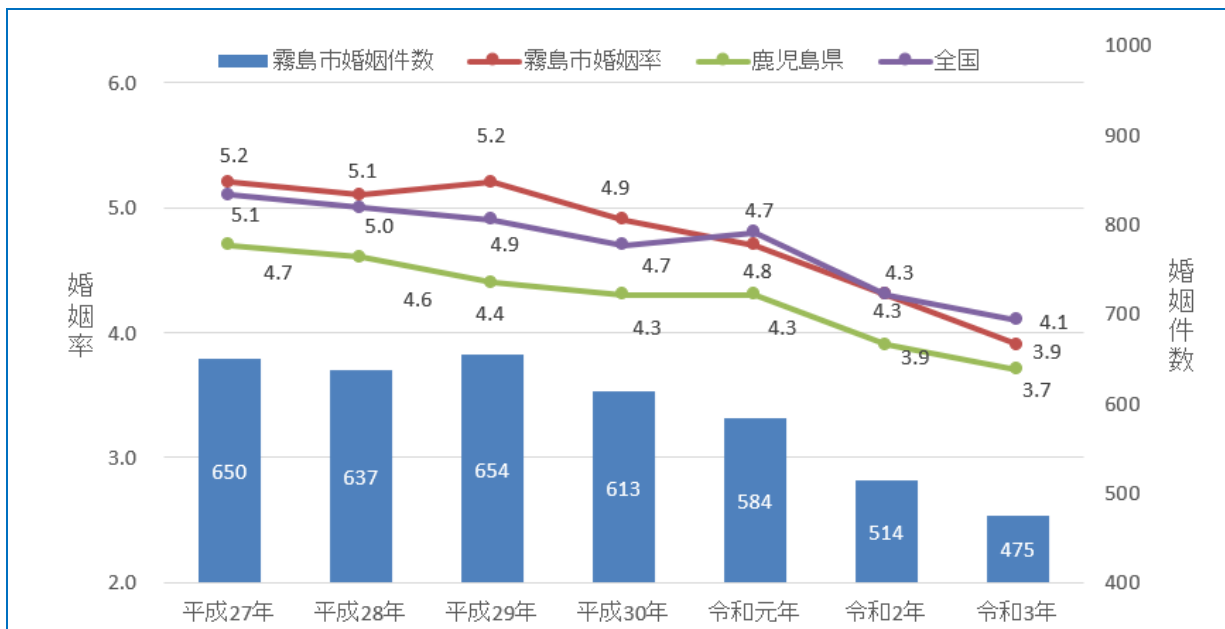
(総務省「国勢調査」)

### 3 配偶関係

#### (1) 結婚

本市における結婚の状況をみると、令和3年の婚姻件数は475件で、前年より39件減少した。なお、婚姻率（人口千人当たりの婚姻件数）は3.9であり、全国の婚姻率（4.1）と同等である。

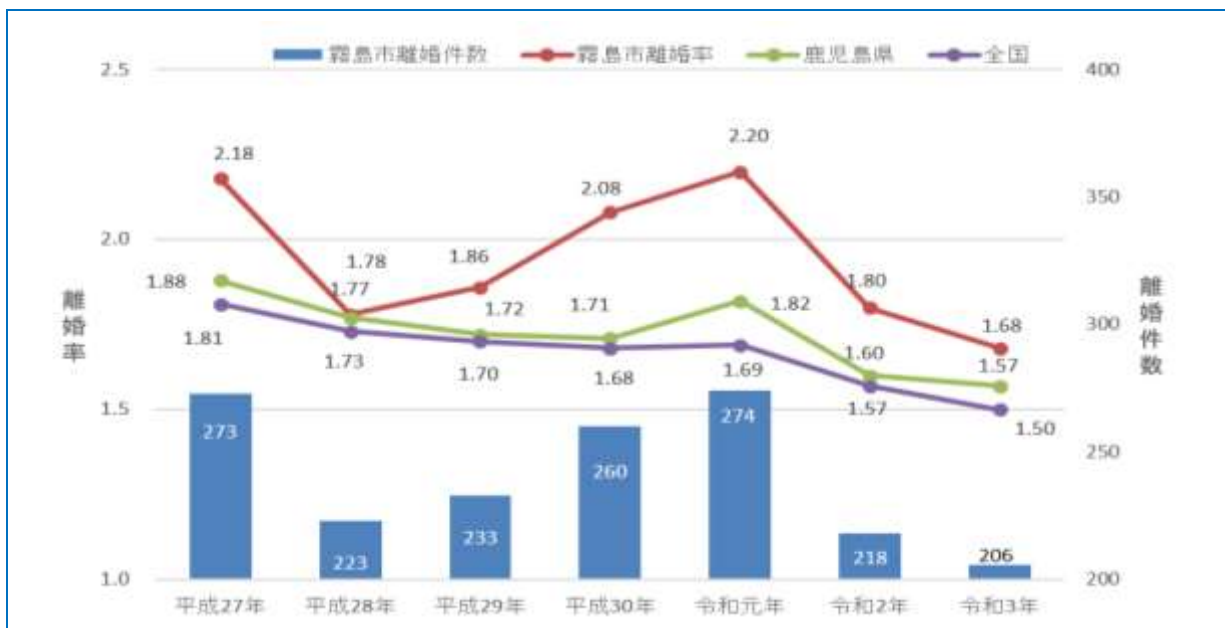
#### (婚姻件数、婚姻率の推移)



(県衛生統計年報)

#### (2) 離婚

本市における離婚の状況をみると、令和3年の離婚件数は206件で、前年より12件減少した。なお、平成30年の離婚率（人口千人当たりの離婚件数）は2.08となっており、鹿児島県の離婚率（1.71）より高い数値となっている。



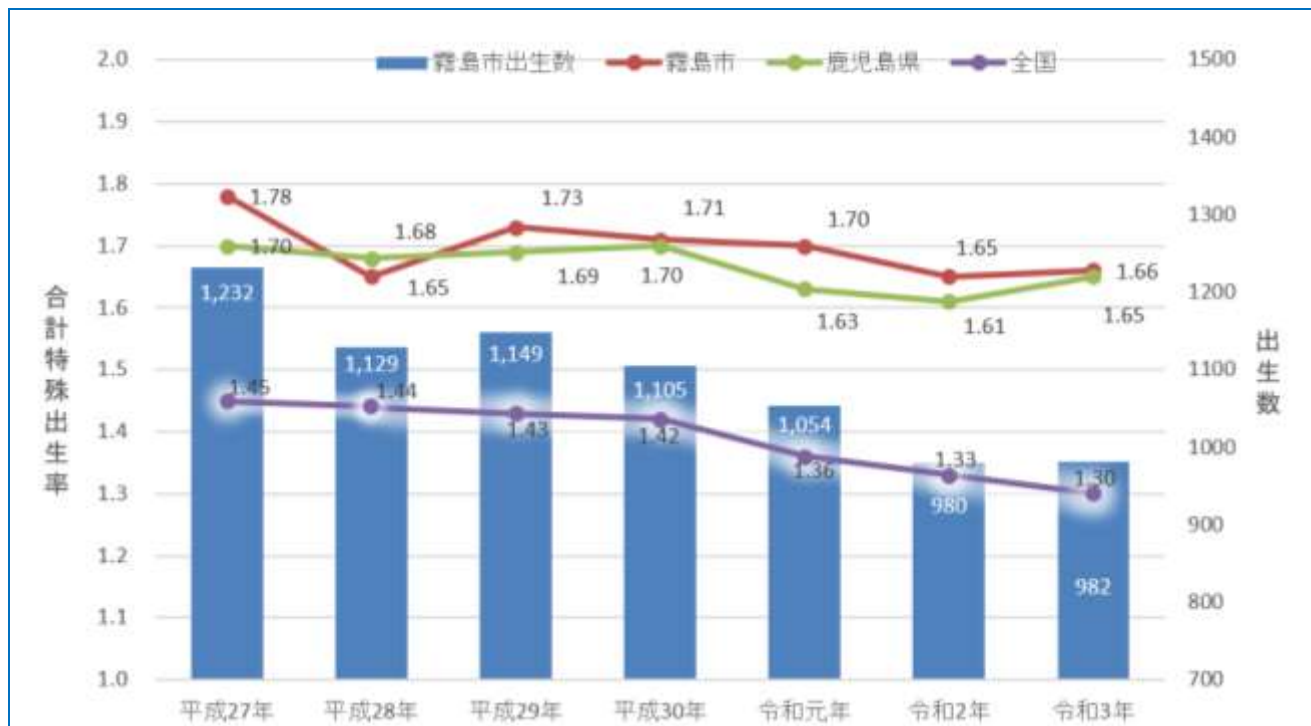
(県衛生統計年報)

#### 4 出生

本市における出生の状況をみると、令和3年の出生数は982人で、減少している。

なお、本市における合計特殊出生率（一人の女性が一生のうちにどれだけ子供を産むか）は1.66で、鹿児島県（1.65）と同程度であり、全国より高い値で推移している。

##### （出生数及び合計特殊出生率の推移）



合計特殊出生率（鹿児島県・全国）：「人口動態統計」厚生労働省  
出生数・合計特殊出生率（霧島市）：健康増進課